

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500130		
法人名	株式会社 神山		
事業所名	グループホーム りんどう		
所在地	〒028-3172 岩手県花巻市石鳥谷町北寺林11-1403		
自己評価作成日	令和4年1月4日	評価結果市町村受理日	令和4年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた景色のいい環境で、家庭的な雰囲気の下、利用者様には、その方それぞれの生活習慣に合わせ、共同生活を送ってもらっている。現在はコロナ禍の為、以前ほど、外出が出来ていないが、事業所内で出来るレクリエーションや行事を考え、工夫して実施している。出来る方には、職員と一緒に掃除や、洗濯物畳み等の軽作業を行ってもらっている。家族さんには、毎月利用者様の様子や参加した行事など手紙に写真付きで送付し情報提供をしている。日頃から、利用者様の様子に変化がないか細かな観察を行い、変化があった場合、すぐに家族さんに連絡をし、必要があれば受診をお願いしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道4号線石鳥谷バイパス近くの見晴らしの良い高台にある事業所で、広々とした敷地には花壇と畑が広がり、隣接して系列の地域密着型特別養護老人ホームが整備され、コロナ禍前は夏祭り等の行事において利用者同士が交流するなどして楽しんで来た。職員は、「総務」「安全管理」「防火管理」「畑」の各担当委員会に属して役割をもち、身体拘束、虐待・人権擁護の会議・研修や地域の防災ボランティアの協力を得た避難訓練実施するなど、担当がそれぞれ工夫を凝らし利用者を支援している。家族には、毎月「お便り」で、利用者の日常生活や行事の様子を写真を添えお知らせして喜ばれている。家族送迎の受診の際に生活状況、バイタルサイン等や気になっていることを記載した「情報提供書」を渡し、主治医からも回答を貰える良好な関係ができています。移動図書館が毎月事業所まで巡回してくれ、利用者は花の本、歌集等を借りて読書を楽しむなど、事業所での生活にリズムをもたらしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年1月24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心安らぐ・温かい・ふれあいを」を事業所理念とし、職員の目の届く場所に掲示し、理念の共有に努めている。また、年度初めに職員一人一人に行動目標を立ててもらい理念の実践に努めている。	現在の介護理念は、開設時に作成したのを見直し、それを基に行動指針も定めている。毎年職員一人一人が理念や行動指針を踏まえた「行動目標」をたて、それを事務室に掲示し、管理者と職員が意識を共有して実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在はコロナ禍の為、実施が難しくなっているが、避難訓練の際に地域の防災ボランティアの方に参加してもらっている。退所された利用者さんの家族の方が野菜やお菓子を届けてくれたり、今でも関係が続いている。	自治会に加入し、回覧板の回付もされている。コロナ禍前には文化祭に利用者の作品等も提供して交流していた。地域の自主防災会に加入し、事業所避難訓練の際には防災ボランティアの協力を得ている。毎月、市の移動図書館が来訪し、利用者が利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族さんには認知症を理解して頂くため、進行した際や、変化があった場合など説明をするようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いた意見については職員間で共有し、必要な物は取り入れサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため書面開催となっているが、委員の行政区長、民生委員、地域包括支援センター、行政(支所担当者)に資料を送付し意見をもらっている。会議を開催していた時は、家族に了解を得て利用者も参加していた。委員から提案があった、事故報告した事案のドアの引き戸を改善について対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	確認したい事や伝えたい情報などは、市の支所や本庁舎に電話や直接出向き助言をもらっている。	支所の担当職員が運営推進会議委員になっており、報告や情報提供などで直接出向いたり、電話等で密接に連絡を取っている。防災ラジオが配置されており、いち早く災害情報も入手できる体制となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会を職員会議の時に3ヶ月に1度開催し、普段の支援が拘束になっていないか研修も行っている。	安全推進担当の職員3名が身体拘束等適正化委員会を兼ね、3か月に1回開催している。虐待・権利擁護・身体拘束のテキストを活用して、委員会と研修会を一緒に開催し、スピーチロックや身体拘束の具体例等を話し合い、身体拘束をしないケア、虐待防止、権利擁護に取り組んでいる。	系列の特別養護老人ホームが隣接していることから、身体拘束に限らず、虐待や権利擁護等について、双方の事業所で共同で一緒になって研修し取り組むことにより、より実践的なものにし、もって職員のスキルアップに繋がることを期待します。

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の際に虐待防止の研修を行い理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の際に権利擁護に関する研修を行い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい説明を心がけている。改定があった場合、速やかに対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より、家族の来訪時、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。意見箱の設置や、毎月のお便りで意見を伺うようにしている。	利用者からは、日々の会話のほか、居室に一人でいたり入浴時など、ゆっくり職員と話しながら要望等を聴いている。家族からは、通院付添いで来所した際や利用者の日常生活、行事の様子をお知らせする「お便り」(毎月)に意見等の欄を設けて、伺うようにしている。家族から、膝が悪い利用者にサポーターを利用したいと申し出があり対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員との話し合いが出来る環境作りに努めている。家電関係の入れ替えなど具体化できた。	管理者は、日常の業務の中や月1回の職員会議の際に職員の提案や意見を把握し、冷蔵庫、洗濯機の買い替えや勤務時間の短縮、夜勤勤務のシフト変更等に対応している。資格取得について、受験費用、交通費を支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、個人面談や、シフト調整の相談を受けている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に、内部研修の実施や資格取得の費用の支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン研修で参加し情報交換に努めている。入所申し込みの方の調査の際など他施設や病院の相談員の方などと情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の生活歴やご家族との関係を出来るだけ把握し要望に沿ったサービスを実施するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込の段階からご家族様のご要望を聞き、職員全員で共有し対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、ケアマネが状況を見極め、サービスの内容を決定しご家族様に確認していただき、ケアプランの作成、サービスの開始に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物畳みなど出来る事を一緒に行って寄り添う関係性を築ける様に努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必用時には利用者の状況を連絡し、相談している。毎月お便りを作成し日々の様子をお伝えしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊、面会など気軽に行えるよう家族さんに伝えている。美容室や、外食などお出かけしている。 現在はコロナ禍の為、制限内で行っている。	コロナ感染対策のために友人知人の面会は難しいが、家族送迎の通院時に外食したり、家族付添いで馴染みの美容室に行ったりして関係が途切れないようにしている。利用者の多くが入居前のかかりつけ医と継続した関係となっているので、本人や家族の安心に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を考慮し、余暇時間の席並びなどトラブルにならないように配慮している。レクリエーション大会や誕生会を実施し交流している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族さんからの相談等があった場合は協力をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ要望に沿ったサービスが提供できるように、希望や悩み等、傾聴に努めている。	利用者全員が、ある程度自分の思いや希望を表現できている。さらに、普段の会話、表情、行動や職員と二人きりになる入浴時のコミュニケーションなどからも、思いなどの気づいたことを記録し、カンファレンス等で情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や申込時に今までの生活歴を聞き情報を記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定、排泄の確認をし、体調の観察をしている。 カンファレンスでサービスに繋げるようにしている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様から要望などを聞きケアプランを作成している。 毎月全利用者のカンファレンスを実施しケアプランに更新を行っている。	原則として長期目標は12ヵ月、短期目標は6ヵ月として見直している。毎月職員会議に併せて、短期目標の評価表を作成し、モニタリング、全員のケースカンファレンスを実施し、その結果を会議の要点としてまとめて回覧するなどし、利用者の情報を職員間で共有している。利用者の読書、将棋、ラジオを聞くこと、化粧等の趣味嗜好もプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活をケース記録に入力している。申し送りノートにも記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のコミュニケーションの会話の中から得た思いや、願いを家族に伝えている。 定期通院の際、家族が付き添う方が多くいるので、受診の他、買い物や食事、自宅に寄ったりと思いを叶えてもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の移動図書館から、毎月本を運んで頂き、利用者に読書をしてもらっている。近場で行われているイベントがある際は参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続している方が多くいる。受診時にはバイタル一覧表と必要時には情報提供書を準備し、提供している。 緊急時は、ご家族に相談しながら事業所で通院対応を行っている。	入居前からのかかりつけ医を受診している利用者がほとんどで、家族が送迎している。受診時家族に「情報提供書」を渡し、日常生活、バイタル等を報告し気になっていることなどを医師に相談でき、回答をもらえる関係ができている。非常勤看護師(月4回勤務)が配置され、健康管理を担っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活で本人の訴えがあったり、バイタルの異常や食事の様子、動きの変化を見つけた際には看護師に相談し指示を仰いでいる。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際は、日々のケースや変化を情報提供書に記載し、提出している。 入院先の看護師や、相談員と情報を共有する機会を作り、家族に出来る限り、安心してもらえるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化しそうな時は、家族に連絡し、かかりつけ医と相談して入院や対応できる施設を検討している。そのような方針は入居時、家族に説明を行い、理解をさせていただいている。	入居時に重度化対応指針に沿って説明しているものの、これまで看取り介助を希望した家族はなく、従って看取り介助や寝たきり利用者の介助の経験はない。寝たきり、食事の経口摂取、一般浴ができなくなった場合は、事業所として、どのような支援が必要なのか、利用者の希望等を踏まえ、家族、主治医と相談の上、他施設への入所も含めて対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は年2回、応急手当の講習を実施している。転倒による出血や骨折が疑われる時は看護師に相談し、講習に従い応急手当を行い救急車を要請する事もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち合いの下、避難訓練を行っている。 日中の他、夜間や水害、地震などの災害を想定した避難訓練も実施している。	高台に立地し、ハザードマップ上では問題ないが、水害想定での避難訓練を1回、火災想定での避難訓練を消防署立ち合いで1回、夜間想定で1回、隣接する特別養護老人ホームと防災ボランティアの協力を得て実施している。食料の備蓄は3日分、自家発電機も備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの性格や体調を理解し、生活面の中で、本人が納得する声掛けを心がけている。	権利擁護研修の中でプライバシー保護の大切さについて理解を深めるようにしている。利用者には「さん」付けで声掛けし、新聞の購読や毎日の化粧、移動図書館の利用、ラジオやテレビの視聴など、利用者の希望を尊重した介護を実践している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者間の話しや、何気無く話した言葉を聞き逃さず取り入れ職員間で共有し出来る事は実現するように進めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の趣味や習慣を聞いて支援している。将棋や提供したレク活動が好きになったり、居室で過ごしたい方には家族の了解を得て、ラジオやテレビを持参している。家族の要望もあり、脳トレのテキストを提供したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧の好きな方は毎日行っている。行事に参加する時、衣類の選択や女性の方にはお化粧をお手伝いし、嬉しそうに参加している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	危険の無い範囲で野菜の下準備をして頂いたり、お盆拭きを手伝ってもらう事がある。	利用者は外食を楽しみにしていたが、コロナ禍のため外食は控えている。誕生日にはケーキにメッセージカードを添えてお祝いしている。お刺身やちらし寿司が好評でお刺身は月1回提供し、漬物は好物で欠かさないようにしている。フキのすじ取り、菊の花摘み、食器拭き、下膳、テーブル拭きなどを利用者が担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立をもとに一人一人に合わせた内容で提供している。持病や体重の増減等のバランスも考慮している。水分補給の際には、好みに合わせたものの提供をし、パソコンのデータに1日の水分量を記録し確保するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをし口腔ケアを徹底している。口腔状態に合わせて歯ブラシ以外の物品も使用し、口腔内の清潔保持により誤嚥性肺炎予防へ努めている。必要な方には、職員による仕上げ磨きを行っている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄やケースを細かく記録し、職員間で共有する事で、状態を把握している。改善点が見えた場合、その時の個々に合った方法を本人の希望と自立を優先とし検討している。	排泄チェック表により利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。利用者のほとんどが尿意があり、布パンツ2名、リハビリパンツ7名、夜間のおむつ利用1名(車いす利用)となっている。布パンツにパットを利用していたがパット無しに、オムツからリハビリパンツになった利用者が、それぞれ1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便の状態・便秘傾向・日々の排便を把握し、看護職と便秘薬や水分量を調整している。その他に、毎日の食事や運動で便秘を防ぐように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決まっているが、希望があった場合にはその都度対応している。入浴を楽しめるように利用同士の相性や、温度、季節の行事(菖蒲湯やゆず湯等)を提供し行うよう工夫している。	入浴日は火・木・土曜日の午後2時から4時の週2回入浴しているほか、毎日清拭を実施し、必要に応じシャワー浴や足湯も行い清潔保持に配慮している。敷地内にある菖蒲で「菖蒲湯」を楽しんだりしている。入浴は、職員と利用者が1対1でコミュニケーションをとる良い機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせて自由に休息を取って頂いている。毛布や敷毛布の他にも寝具に希望があった場合、可能な限り対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の説明書を病院ごとにまとめ、職員が確認できるようにしている。又、分からない事があった場合、看護職や各病院、薬剤師に確認を取るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本情報だけではなく、本人や家族とコミュニケーションを取りながら趣味や生活歴を聞くようにしている。得た情報を活かし、日々の手伝いや作品作り等余暇活動に繋げている。		

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスが落ち着くまで、ドライブや散歩を中心に行っている。本人より希望があった際には、家族へ伝え相談し理髪店等出かけられるように支援している。	天気の良い日は事業所や隣の特別養護老人ホームの庭の散歩に、季節にはドライブで、紫波町の案山子祭り、五郎沼の花見、田んぼアート見学、近所の熊野神社への初詣などに出かけているが、コロナ禍の影響で外出の機会は減っている。家族付添いで通院が貴重な外出の機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルスが落ち着いた後、買い物へ出かける等個々の希望に合わせて家族に相談後、支援を続けていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があった際には、電話ができるように支援している。又、手紙のやり取りができるように切手や封筒の準備、投函もお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事ごとに合わせた装飾を手作りでしている。又、ソファーを使用し落ち着いた過ごせる様工夫している。近隣に大きな道路や家等がなく、自然や季節を感じ景色を楽しめるようにカーテンを開けている時が多いが、眩しく感じる方にも合わせて中和を図れるように支援している。	床暖房とエアコンにより、夏冬とも心地よく過ごせるよう調節している。南側に面した窓からは広々とした敷地が見渡せ、季節の景色を楽しむことができる。食卓テーブルと椅子、ソファーが配置され、利用者それぞれが好きな場所でくつろいでいる。職員と利用者が一緒に作成した貼り絵や季節の装飾(鬼の面、お雛様)も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活の中で、個々の性格や相性等を配慮し席を配置している。又、ADLに合わせて余暇活動と食事の席を分けることも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナウイルスの感染防止で家族が居室を見学する事が出来なくなってしまったが、写真による内覧で使い慣れた家具や電化製品等がある場合には持参して頂いている。又、家族写真や趣味で撮った写真、絵や花等も飾っている。	居室の入り口にフルネームの木製風の立派な表札が掲げられ、その下に避難確認のための「避難済」の札も用意されている。ベッド、タンス、棚、エアコンが備え付けられ、テレビやラジオをそれぞれ一人の方が持ち込んで、入居前と同じように視聴を楽しんでいる。家族の写真や自分の作品を配置するなどして自分の部屋を飾っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、トイレ、居室、浴室、各部屋へ動線が取れ安全に移動できるようにしている。各部屋は分かるように記している。又、ベットの配置やベッドの種類等本人の状態に合わせて変更している。居室の家具の配置も、隣の部屋と配置を変えて一目で本人の居室が分かるように工夫している。		